



# 貴布禰神社

〔旧県社〕

久米郡久米町桑上二九〇

# 岡山県 神社廳 廳報

発行所

岡山県神社庁  
教化委員会 広報部  
岡山市南方1-6-15

〒700

TEL.086-223-4826

振替口座01210-7-13684

〔主祭神〕高竈神 間竈神  
外八柱

〔例祭〕十月十三日

〔宮司〕為貞查苗

〔由緒沿革〕本神社の創建は崇神天皇七年、倭香平治という者がこの地に加茂神社を勧請したものと伝えられている。堀河天皇の寛治四年七月、美作国の河内庄倭文庄は賀茂の神領地となり、毎年神説を輪して競馬会に備えた。社号は倭文庄大宮、倭文郷総社といった。寛政年中には大宮貴布禰大明神と称し、後、大宮貴布禰狼犬神宮など称したが、明治六年貴布禰神社と改称。明治六年村社列格。同十七年十月県社列格。明治二十一年改築。

# 謹賀新年

皇紀二六五六年丙子歲元旦

## 岡山県神社庁

庁長代務者 藤井 敬

副庁長 湯浅 正 敬

理事 難波 宗 朋

沖田 正 秀

物部 忠 三 郎

笹井 和 男

小川 映 興

三原 千 幸

宮原 義 久

仲田 文 四 郎

河本 貞 紀

横林 重 美

渡辺 更 生

## 岡山県神社総代会

会長 宮原 義 久

## 〔事務局〕

参事 本郷 弘 之

主事 小山 玉 章 子

主事 太田 浩 司

主事 杉田 節 子

録事 河田 晴 彦

# 目次

貴布禰神社	一
久米郡久米町桑上二九〇	一
年頭のご挨拶	一
神社庁長代務者 藤井 敬	二
神宮大麻・曆頒布始祭執行	二
暑さにくげず研修会	三
神青協が英霊報恩感謝祭執行	三
小笠原庁長が帰幽	三
十月十一日蔵かに葬儀告別式	四
故小笠原庁長略歴	五
葬祭奉仕員	五
支部便り	六
吉備支部	六
西大寺支部	六
中国地区教化会議	六
家庭祭祀などテーマに岡山で	六
「テレビCM」再制作	七
「神社関係者感嘆論文」応募要項	七
伊勢まいりと自然体験の旅	七
青少年対策委員長 井上 亮一	八
旅の感想	八
中学一年 藤井 美幸	八
中学一年 光永 雄	八
アンケート	八
承認された神社	九
本庁辞令	九
階位授与	九
任免	十
庁務日誌抄	十一
神職帰幽	十二
神社庁閉庁のお知らせ	十二

# 年頭のご挨拶

岡山県神社庁長代務者 **藤井 敬**



心新たに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様にとって旧年はどんな年だったでしょうか。開八月の年は凶年と言われるとおり我が国にとっても、正月十七日の阪神大震災をはじめ各地の地震、政治・金融への不信、オ

ウム真理教の反社会的事件など、将に終末感のじむ世情混沌の年になり、岡山県神社界にとっては、九月十日、小笠原庁長が忽然とご逝去になられるという大事件に見舞われました。十月十一日齋行されました合同葬には、皆様方の超ご多忙の中でのご尽力とご奉仕をいただきましたこと改めて厚く感謝申し上げますとともに、今更ながらその存在の大きかったことを痛感しつつ、小笠原庁長の御霊の御栄をお祈りいたします。さて、本年は伊勢神宮は二千年、神社本庁は五十年と記念周年に当り、全国的にイベントや事業が執り行われますが、これに御協賛、ご参加いただくは勿論、神社界、神職界、氏子間のコミュニケーションの契機にし

ていただければ幸甚に存じます。戦後、マイナスから出発した神社界も、はや五十才、内的不安感が満ち満ちている現在神社はどうあるべきか？、神職は何をすべきか？、現代のニーズは何なのか？、永年神勳の神職は其の豊富な経験と英知で以って、新人の神職は新しい発想をもって、婦人神職は女性の立場から、と、お互いが活発な本音の議論の中に模索し、そこから得られる確固たる神学とその果実のもと、神社の隆昌に、教化活動に邁進されますよう願ってやみません。末筆ながら皆様方の倍旧のご活躍とご多幸を祈念し、私の年頭のご挨拶といたします。

## 神宮大麻

### 暦頒布始祭執行

去る十月三十日午前十時から岡山市奥市(岡山県遺族福祉会館)において、本郷参事齋王のもと神宮大麻暦頒布始祭が執り行われ、祝詞奏上の後、藤井、湯浅両副庁長より、支部長さん

一人一人に大麻と暦を手渡し、祭典を終了した。引き続き、表彰式並びに推進会議が開催された。表彰式では左記の方々が表彰された。

## 神宮大宮司

### 表彰

◎頒布従事者特別表彰  
御前八幡宮宮司 堀 倫之

◎優良頒布従事者  
綾部神社宮司 易 淳臣  
戸島神社宮司 桑野 典彦  
徳蔵神社宮司 池田 博子  
竹原神社宮司 中田 保  
鼓神社宮司 千原 恭平  
八幡神社宮司 石井 紀之

### ◎優良支部

阿新支部・高梁上房支部

大神社宮司 山室 宣也  
天満神社宮司 渡邊 昭臣  
青木八幡神社宮司 勢村 博志

垂水神社宮司 築澤 慧  
八幡宮総代 立藤 勝祥  
長尾神社総代 田辺 寛  
化氣神社責任役員

旭神社責任役員 石井 弘志  
八幡神社総代 長家 基  
岩谷 基

## 岡山県神社 庁長表彰

(四一) 内宮始め一四社  
(四一三) 玉島支部  
久米支部

推進会議では、初穂料改訂により、氏子崇敬者に理解を求め、施策や、神職二名、総代一名による大麻増頒布の方法や苦心談が報告され、神宮大麻増頒布に向けて神職、総代一丸となり、一層努力することを誓い合せて解散した。



# 暑さにめげず研修会

夏は「研修の季節」である。県神社庁各支部でも、例年のように各種の研修会が暑さにもめげず開かれ、熱心な受講風景が各地でみられた。

各研修会は次のとおり。

●**視研修会**―七月十九日、倉敷市酒津で、西酒津公民館及び酒津公園プール。講師・福田隆先生、受講者十八名。

●**浦安の舞研修会**―七月二十七日、二十八日、船川八幡宮。講師・柴床博仁、安達明治先生、受講者三十三名。

●**祭式研修会**―八月六日、御津郡加茂川町、重岡神社。講師・三原千幸先生、受講者十三名。

●**浦安の舞研修会**―八月七日、八日、上房郡賀陽町、上竹荘公民館。講師・柴床博仁、安達明治先生、受講者五十六名。

●**雅楽(竜笛)研修会**―八月十七日、十八日、新見市高尾、国司神社。講師・難波宗朋先生、受講者五名。

●**祭式研修会**―八月二十日、津山市宮脇町、徳守会館。講師・三原千幸先生、受講者二十九名。

●**祭式研修会**―八月二十四日、新見市高尾、国司神社。講師・本郷弘之先生、戸部廣徳先生、受講者二十四名。

●**祭式研修会**―八月二十五日、岡山市奥市、岡山縣護國神社。講師・小笠原毅先生、受講者十二名。

●**祭式研修会**―八月二十七日、岡山市吉備津、吉備津神社参集殿。講師・長谷晴男先生、受講者五十一名。

●**神葬祭研修会**―八月二十七日、井原市井原町、花月別館。講師・見垣安邦先生、受講者十八名。

講師・見垣安邦先生、受講者十八名。

●**雅楽(ヒチリキ)研修会**―八月二十八日、二十九日、新見市高尾、国司神社。講師・難波宗朋先生、受講者五名。

●**雅楽研修会**―九月二十八日、二十九日、川上郡成羽町、ラフォーレ吹屋。講師・山田貫助・難波宗朋・高階重和先生、受講者九名。

●**神社実務研修会**―十一月二十二日、岡山市東山、玉井宮東照宮参集所。講師・高原家康先生、受講者四十一名。



高梁上房支部の浦安の舞研修会

## 神青協が

## 英霊報恩感謝祭執行



終戦五十年にあたり、護国の英霊に感謝の誠を捧げようと岡山県神社青年協議会(会長戸部廣徳)では去る十一月二十日岡山縣護國神社に於いて「英霊報恩感謝祭」を執行した。この祭典を執行するにあたり、去る五月二十一日阿哲郡大佐町大佐神社氏子である塚原直次氏の協力を得て、御斎田を提供いただき神青会員により、お田植え祭を奉仕後一株一株手植えをした。その後塚原氏の丁寧な管理により、昨年の猛暑を乗り越え九月

二十一日会員の手により収穫し、抜穂祭を執行した。当日は午後二時より岡山縣護國神社河野権禰宜を齋主として、神青会員八名奉仕の下、御斎田で抜穂された稲穂を神前に供え、祝詞に続き、戸部会長による決議文の奉読、御斎田耕作者の玉串拝礼等が執り行われた。

この祭典に先立ち十月、神青協の会員により御斎田耕作者同伴のもと靖国神社にも献穀を行った。

# 小笠原庁長が帰幽十月十一日厳かに葬儀告別式



小笠原毅岡山県神社庁長、岡山縣護國神社宮司（淨階・級）はかねて病氣療養中であったが、九月十日午後三時四十五分、治療の効なく岡山市、神原病院で帰幽された。享年七十三歳。九月十二日に密葬、十月十一日午後二時～同四時、岡山市奥市、岡山縣護國神社特設斎場で岡山県神社庁、岡山縣護國神社、小笠原家合同の葬儀告別式が厳粛に執り行われた。神社本庁、神道政治連盟、伊勢神宮、全国護

國神社、一般神社、岡山県遺族連盟、友人など約七百人が密葬と合わせ会葬、玉串を捧げお別れを行った。

葬儀告別式は十月十一日午後一時定刻、白菊と真神が飾られた特設斎場に静かに奏楽の調べが流れる中、特別、一般参列者、遺族が入場着席、修祓、供饌、祭料奉奠に続き、湯浅正敬斎主が、故庁長の高潔な人柄と長年にわたる斯道への貢献を

称えた誄詞を厳かに霊前に奏上した。

ついで梶谷忠二葬儀委員長（岡山縣護國神社責任役員）と藤井敬同副委員長（岡山県神社庁副庁長）の追悼の詞、神社本庁統理、細川護貞氏、神道政治連盟会長、藤本勝善氏、全国護國神社会長柳澤登氏、岡山県遺族連盟会長、近常寧氏、友人代表、小川賢朗氏らがそれぞれ遺影に語りかけるように弔辞を捧げた。このあと弔電奉誦に続き、

斎主、葬儀委員長、喪主、特別参列者、遺族、一般参列者の順で、それぞれに玉串を捧げ故庁長の在りし日を偲びお別れを行

った。最後に梶谷葬儀委員長と喪主の小笠原宗明氏がそれぞれ挨拶を行い、葬儀告別式をとおりに終了した。



故小笠原毅庁長略歴

故庁長は大正十二年六月、田満州奉天生まれ。昭和五年井原市西江原町の本籍地に帰り、興讓館中学在学中に大社国学院に進学、同館卒業の昭和十六年、官幣中社古備津神社雇となり神社界への第一歩を記した。昭和十八年難関の神職高等試験に合格、海軍に応召、終戦で復員後阿倍野神社主典を経て昭和二十一年、古備津神社主典、ついで欄宜に任ぜられる。同年事情があり本職を辞任後、昭和二十三年岡山縣護國神社權欄宜、同二十七年同神社欄宜を拝命、同四十八年神職身分二級に昇進された。同四十九年県神社庁祭式助教に、同五十二年神社本庁地区講師、同五十五年県神社庁協議員に選任、同五十八年神社本庁表彰規定第三条二項により表彰を受け、翌五十九年身分二級上に昇進される。同年県地方研修所主任講師。同六十二年、県神社庁副庁長に選任、同年岡山縣護國神社宮司を拝命され、平成二年に岡山県神社庁長に就任された。

またこの間昭和六十二年から(財)伊勢神宮崇敬会県副本部長、神政連県本部幹事長、県遺族連盟顧問、神社本庁参与、伊勢神宮式年遷宮奉賛会本部長理事、神社本庁評議員、神宮評議員、第六十一回伊勢神宮式年遷

宮奉賛会県本部副本部長、県神社庁研修所所長、神宮参与、神政連県本部本部長、(財)伊勢神宮崇敬会県本部本部長等々の要職に就かれた。

さらに平成三年には神社本庁設立四十五周年の表彰を受けられ、同五年には長年の功績により神職階位浄階身分一級に昇進された。同七年には神社本庁表彰規程第二条一項により表彰され、神社本庁評議員会常任委員、神政連副幹事長にも選ばれた。斯界のために多忙な日々を過ごされ今日に至った。長寿時代の今は、七十二歳での逝去は早すぎる生漕といえよう。慎んで御魂安かれとお祈り申し上げます。

葬祭奉仕員(敬称略)

齋主・湯浅正敬(県神社庁副庁長、中山神社宮司)
副齋主・三原千幸(県神社庁理事、安仁神社宮司)
祭員・戸部廣徳(大佐神社宮司)、同 藤山知之進(新庄八幡宮宮司)、同 松浦謙二(西園神社宮司)、同 河野 薫(県護國神社權欄宜)、同 根石俊明(県護國神社權欄宜)
典儀・見垣安邦(県神社庁祭式講師、伊勢神社宮司)
伶人・難波宗朋(岡山楽所)、山出愛明(同)、高階重和(同)、内出照明(同)、鬼玉史秋(同)

吉備支部

大山祇神社と耕三寺参拝

吉備支部総代会主催の一日研修旅行を今回は大山祇神社と耕三寺に決め、さる九月十九日に一三五名(神職・〇名)にて盛会に終えた。

今回は研修の目的である何にかを考えていただくことを念頭におき、国幣大社大山祇神社と金銀装飾豪華絢爛たる耕三寺を参拝し、思考の一日とした。

○神社名表記は大山祇神社、祭神名表記は大山積大神であること。

○全国の国宝級甲冑の八割があること。

○別名(和多志大神)といい、船の渡しにかけてあり海神の神として船舶関係の信仰があること。

又、神と仏についての関わりであるが、仏においては人の目を引く為に大きさや、色や、華やかさを活用しポリウムと力を顕示しますが、神道は素にして純であり白であります、その極めは、奥であり、上であり、無であります。私共が希求するものは、この世とあの世との不変の真理でありそれは、正直で天地に素直なところから得られると思う。現代人間の創り出した寺と、千有余年太古のうっそ

うとした大自然の中の社と、どちらが天地に素直で正直かは、論をまたない。

今回、物金量に満足を求める人と、素朴で純なるものを求める人の比は定かでないが、少なくとも仏のはでやかさから、質素な神の奥義までには、フェリが必要だったことは、たしかなことだった。

邑久西大寺支部

総会を開催

去る九月二十九日、平成七年度岡山県神社総代会邑久西大寺支部は、鷺羽ハイランドホテルにおいて約二〇名の総代・神職が参加し総会を開催した。

これに先立ち岡山縣護國神社で、今年は大東亜戦争終結五十周年に当たり原点に顧み現在の日本の平和と発展の礎として散華された英霊にたいし総代会会長川崎武志氏が玉串奉奠をし慰霊の誠を捧げると共に、世界の平和を祈念した。

総会は例年通り決算承認・予

算案審議をして全員一致で可決した。また今年から神宮大麻の御初穂料改訂により困難が待受ける領布事業に神職・総代一丸となって氏子の皆様に理解と協力をいただいて、例年の領布実績に近づく様にと誓い合った。

午後から趣向を変えて落語家雷門喜助師匠の独演会を開き笑いの渦の中、和やかな一時を過ごし神職・総代意気投合して、神道精神を涵養し有意義な一日となった。



熱心に  
意見交換

# 中国地区 教化会議

第三回中国地区神社庁教化会議が平成七年九月八日、九日の二日間、岡山市下石井、ホテルサンルート岡山を会場に十九名が参加して開催された。岡山が当番県で、当県からは湯浅教化担当副庁長、笹井教化委員長ら十名が出席した。

初日の八日は午後二時開催、笹井委員長を議長に選任、本年度の各県教化活動報告と来年度の活動方針の概要説明が行われた。神社本庁教化テーマの中から「家庭祭祀・人生儀礼を盛んにするための対策」が共通テーマとして決定しており、これを中心にまず本年度の各県の取り組みが発表された。

各県とも地道な活動が行われているようである。  
山口県からは  
一、氏神様の神札と神宮大麻を都会に出ている故郷出身者に

## 家庭祭祀など テーマに岡山で 教化会議開く

送る運動。

一、初宮参り、初誕生参り、七五三祝祭、勸学祭など子供に関する祭りの案内や成人祭、厄除祭、年祝の氏子への呼びかけ。

二、地鎮祭を通し新築祝い、神棚祀りの丁寧な説明の実施。

三、神社庁各支部の広報、神社の社報、社頭案内を充実し氏子崇敬者との関係を教化するなど。

鳥根県は  
一、産土神社の神札や神宮大麻の奉斎の意義の徹底。

二、家庭の神棚の拝礼や家庭祭祀の勸奨、人生儀礼の祭りを折りにふれ呼びかける。

三、県下各地の神道講演会の充実。

四、人生儀礼や家庭祭祀の呼びかけを核家族家庭や若い世代



の家庭に重点的に行う。

広島県からは

一、家庭や職場の神棚奉斎を推進する。

二、神社に於ける祭事に積極的な子供の参加を呼びかける。

三、氏子崇敬者のメ縄づくり、敬神友の会、敬神婦人会等々の組織づくりをする。

四、人生儀礼等を記した氏子向

け社報を配布するなどが報告された。

当県からは

一、総代、氏子崇敬者を対象とした神道講演会。

二、初詣と氏神様の神札、神宮大麻の奉斎を呼びかけるテレビコマーシャルの放送。

三、青少年対策事例集の発行。

四、青少年に伊勢神宮の理解を

呼びかける「子ども伊勢参りと自然体験の旅」の実施などを本年度の主な活動として報告した。引き続き来年度の各県の活動計画の概要説明を行い、初日の会議を終了した。

このあと懇談会を行いくつろいだ雰囲気各県の実情などさらに話し合った。

二日は午前八時半から再開各県からテーマに沿った来年度の取り組みが発表された。山口、広島、鳥根、鳥取の四県からは本年度の活動を踏まえ、年中行事と人生儀礼、家庭祭祀、家庭問題でもさらに工夫をこらし多角的、積極的に教化活動を進めて行くことが述べられた。

当県からは教宣部が神道巡回講演会の充実、神社祝祭研修、神社庁所有のビデオやビデオプロジェクターの活用、個々の神社での社頭講話の実施。広報部は氏子、崇敬者向けテレビCM再製作。青少年対策部は好評だったことも伊勢参りを再度実施、青少年対策委員会を中心とした研修。事業部は神社振興対策事例集の発行、岡山県の神葬祭の冊子の刊行などを方針として発表した。会議終了後参加者全員で岡山市今の今村宮に正式参拝し閉会した。

限られた時間での教化会議であったが、各県とも積極的な発言で取り組みへの意欲が感じられ充実した会議となった。

神社本庁設立50周年記念

「神社関係者懸賞論文」応募要項

●テーマ（応募内容）

現代の社会は、学校で頻発する『いじめ』に代表されるような教育問題、あるいは我々の生活の在り方も深い関わりのある自然環境の破壊や過密・過疎など、様々な課題が山積みしています。また、その一方で、国際化や情報化の波が産業技術の発達とともに、社会の隅々にまで入り込もうとしています。

そうした今日の社会環境を念頭においた上で、これからの神社の在り方を探ってゆくことを主眼として次の2つのテーマについての論文の投稿をお願い致します。

①「私の実践したい教化活動」

今日の社会の姿を直視するとき、夫々の神社が神社本来の使命を果たしてゆくためには、これまでの教化活動からさらに一步踏み出した活動、或いは視点を変えた活動が望まれるところです。そこでこれからは、青少年活動、広報活動、社会活動、或いは家庭祭祀の振興など、従来の教化活動にどんな工夫をしてゆかなければならないか。日頃の実践経験を踏まえた上で、これから実践したいと考える教化活動の具体的な内容、抱負について、夫々の立場での具体的な提案をお願い致します。

②「神社界へ提言したいこと」

戦後神社本庁が設立され、新しい神社界の組織が築き上げられてから50年が経過し、その間、神社界を取り巻く社会状況は大きく変化いたしました。今日の神社界は、幅広い視野で的確に状況を認識し、長期的な展望に基づいた将来への構想を確立すべきときにきていると言えます。そこで、これから神社界は、いかなる状況認識と将来展望のもとに、神社運営や教化活動、或いは社会問題への対応に取り組んでいかなければならないのか、夫々の視点での具体的な提言をお願い致します。

- 応募資格 神社関係者（神職・総代・指定団体関係者等）
- 応募方法 400字詰め原稿用紙（B4版、ワープロ可）15枚以上20枚以内とし、本文とは別に表紙を作成して、①テーマ②氏名③年齢④関係神社名と役職⑤連絡先の住所と電話番号を明記の上、郵送のこと。
- 応募上の注意 ◇応募論文は自作未発表のものに限る。  
◇応募論文は返却しない。
- 応募締切 平成8年3月31日（日）当日消印有効
- 賞 統理賞 1点 賞金 30万円  
総長賞 2点 賞金各 10万円  
佳作 数点 賞金 各3万円
- 発表 入賞者には直接通知するとともに、統理賞、総長賞の論文は、平成8年5月発行の神社新報紙上で発表する。
- 選考 神社関係の学識経験者をはじめ、神社本庁役職員等10名程度で構成する選考委員会を設けて、入選論文を選出する。
- 後援 神社新報社
- 論文宛先・問い合わせ先

〒151 東京都渋谷区代々木1-1-2 神社本庁教化部内  
「神社関係者懸賞論文募集係」宛  
(電話 03-3379-8016)

氏神様への初詣・  
神宮大麻をPRの  
『テレビCM』再制作



教化委員会広報部では、氏神様への初詣と神宮大麻奉斎の啓蒙を広く県民に呼びかける為に平成四年からテレビによる『CM』の放映を行って来た。  
最初は静止画面の『CM』から始まり、平成五年には要領がわからないままに、しかし、なんとか体裁のとれた初めての動画『CM』を作ることに成功した。この動画『CM』も二年間放映したので、今回新しく作成することとなり、去る十月二十

三日制作会社フオンタージユのスタッフ三名が津山入りし、『中山神社』（湯浅正敬宮司）の協力を得てロケを行った。  
今回は自然をテーマに神社の杜の清々しさを、木漏れ日や手水の水面の乱反射などの技法で表現した。制作も二回目ともなると、要領がわかり凝った『CM』が作れるようになった。さてその出来栄えはどうだったであろうか。

# 子ども達と共に 伊勢まいりと 自然体験の旅

「わしが国さはお伊勢に遠いお伊勢恋しや参りたや」と、伊勢首頭にあるように一生に一度お参り出来たら果報者と言われていた伊勢まいりも、今では一寸無理をすれば日帰りも可能な良い時代となった。

今回のこの企画は時を得て、青少年対策委員会が次回の遷宮に向けこれからの日本を担う青少年に「神宮への親しみと氏神

い協力により三十九名の参加で実施した。

旅の感想については、参加者よりアンケート調査を行った結果、「神宮にまたおまいりしたいですか?」はい! 三十四名(八十七%)と嬉しい解答をえたものである。

今回のアンケート結果を踏まえ、次回以降の計画実施

が、尚一層多きものとなるように願いつつ、この初企画に絶大なご支援をいただいた関係神

職各位ならびに神社庁職員に、衷心より感謝の意を表するものである。

又、猛暑の中を同行の神職各位には、その献身活動に対し、紙上を借り感謝御礼を申し上げます。「本当に、ご苦勞様でした!」

青少年対策委員長

井上 亮二

様さらに祖先を敬う心、併せて自然との触れあい体験を通して自然に対する畏敬の念を養い育てよう」との主旨の下、初挑戦した教化実践活動である。

期間は、夏休みの八月二十一日から二十三日までの二泊三日で、参加資格は神職並びに氏子さんの子弟で小学四から中学三年生の男女子。

各支部長始め関係神職の暖か



### 旅の感想

中学一年 藤井美香

八月二十一、二十二、二十三日の三日間、本当にありがたうございました。おまけに写真までいただいて、私は、あの三日間とてもいい経験をしました。旅行に行く日の夜、とても、心配でした。友だちがたくさんで来るかなと、とても不安でした。けど、行く途中のバスの中で自己紹介をしました。自分の番が来て、言って、終わるとみんなが拍手をしてくれたのでとても、うれしかったです。それからたくさん友だちができました。その日は、夜もねむれなくて、わくわくしていました。その次の日は、もっと、たくさんの友だちができました。二日目は少年自然の家です。私は、食事係になりました。そこでは、男の子達とも協力できて、とてもうれしかったです。この日はつかれたせいかぐっすりねむれました。でも、夜中に目がさめました。そして窓から空を見ると、星がいっぱいでした。私はあんなに、たくさんの星と、きれいな星を、見たことがありませんでした。写真もとりました。そして、とうとう三日目、少し元気がありませんでした。バスの中で、少しよってしまいました。すごく残念でした。でも、だいぶ体調の良くなったこ

ろ、仲の良かった友達と、別れることになりました。最後に「三日間ありがたう元気ですね」と言いました。そして、どんな人が少なくなっていくました。家に帰った時は、くたくたでした。でも、次の朝、本当に良かったなあと、思いました。

らって、うれしかったです。本当に、この三日間どうもありがたうございました。

### 旅の感想

中学一年 光永 雄

私は今まで、県内各地の子供達と旅行したのは、今回がはじめてでした。とても楽しく、思い出のたくさん作れた三日間でした。また、こういう機会があれば、ぜひ参加したいです。最後になったけど、お世話してくださったみなさん本当に、どうもありがたうございました。みなさんに、とてもやさしくしてく

ばくはこの旅の話を神主さんから聞きました。最初はこういうことで、どういう旅なのかよく分かりませんでした。でも行く前からわくわくして地図も広げて見たりもしました。一日目は、二見興玉神社に参拝しました。お社が工事中なのが残念でした。大きなしめなわをわたした夫婦岩が見学でき

よかったです。次に外宮に行きました。手の洗い方を教えてもらって、大きな鳥居をくぐると静かな森の中にとってもりっぱなお社がありました。みんなそろってお参りをしました。ほんとうに来てよかったと思いました。

伊勢神宮には一生に一度と言いますが、何回お参りしてもよい所だと今回参拝してよく分かりました。また機会があれば参拝したいです。今回はどうもありがたうございました。たくさんの友だちもでき、いい思い出ができました。

### 【伊勢まいりと自然体験の旅】

#### アンケート

39人=100%

- 参加してどうでしたか？
  - (1) よかった 64.1%
  - (2) ふつう 35.9%
  - (3) つまらなかつた 0%
- この旅行をだれから聞きましたか？
  - (1) 家族から 30.5%
  - (2) 神主さんから 28.2%
  - (3) お宮のお世話をしている人から 5.1%
  - (4) その他 28.2%
- よかった所はどこですか？
  - (1) 二見おきたま神社 0%
  - (2) 伊勢神宮 66.6%
  - (3) 自然家 2.6%
  - (4) バスの中 2.6%
  - (5) その他 28.2%
- つまらなかつたところはどこですか？
  - (1) 二見おきたま神社 25.6%
  - (2) 伊勢神宮 0%
  - (3) 自然家 56.4%
  - (4) バスの中 2.6%
  - (5) その他 15.4%
- 伊勢神宮におまいりしたのは何回目ですか？
  - (1) 初めて 94.9%
  - (2) 2回目 5.1%
  - (3) 3回以上 0%
- 伊勢神宮にまたおまいりしたいですか？
  - (1) したい 87.2%
  - (2) したくない 2.6%
  - (3) 一度おまいりしたからもういい 10.2%
- 友達となかよくやれましたか？
  - (1) 友達ができて楽しかった 94.9%
  - (2) 友達はできなかつたけれど楽しかった 5.1%
  - (3) 知らない人ばかりでつまらなかつた 0%
  - (4) その他

# 承認された神社

自 平成 7 年 7 月 1 日  
至 平成 7 年 11 月 30 日

## ●規則変更

八月二十九日

岡山市沼 八幡宮

(青津八幡宮に社名変更)

岡山市藤井 八幡宮

(岡屋八幡宮に社名変更)

岡山市中尾 八幡宮

(熟田八幡宮に社名変更)

九月十四日

苫田郡奥津町久田下原 久田神社

(第七条責任役員変更)

十月二十四日

御津郡建部町核 佐久良神社

(第二条、四十条鎮座地変更)

## ●財産処分

七月二十八日

高梁市宇治町穴田 八幡神社

(農道整備事業による境内地、山林の売却)

十月二十四日

御津郡建部町核 佐久良神社

(危険防止の為境内樹木の伐採売却)

十月二十七日

倉敷市児島由加 山村神社

(水路改修事業による田の売却)

赤磐郡赤坂町多賀 鴨布勢神社

(河川改修工事による山林の売却)

却)

十一月十七日 真庭郡落合町下河内 下河内神社

(交通安全施設工事による山林の売却)

井原市野上町 大山祇神社

(林道建設による山林、保安林の売却)

## ●主要建物改築等

七月二十一日

浅口郡寄島町 大浦神社

(絵馬殿(授与所併設)の新築)

十月二十日

真庭郡落合町大字垂水 垂水神社

(幣殿、拝殿、社務所(唐破風)の模様替え)

倉敷市本町 阿智神社

(高灯楼の改築)

十月三十日

浅口郡寄島町 大浦神社

(拝殿修理により借入)

倉敷市本町 阿智神社

(高灯楼の改築)

八月四日

真庭郡久世町大字樫東 守吉神社

(十一月二日を十一月三日に変更)

# 本庁辞令

五月二十四日

神職身分二級上とする

甲山八幡神社宮司 片山孝則

六月一日

藤山秀夫 倉敷市児島阿津新庄八幡宮名譽宮司の称号を授け

九月一日

神職身分二級上とする

郡神社宮司 豊田正発

伊勢神社宮司 見垣安邦

瓜生神社宮司 横林武彦

大浦神社宮司 小川暎興

七月二十二日

江見明修

御津郡御津町大字河内

熊野神社禰宜に任ずる

八月二十一日

茨八幡神社宮司 渡邊悟

井原市西江原町

兼て甲山八幡神社宮司に任ず

菅原神社宮司 志水義則

井原市菅野町

兼て菅原神社宮司に任ず

菅原神社宮司 志水義則

井原市菅野町

兼て穴尾八幡神社宮司に任ず

美甘神社禰宜 黒田幸衛

兼て新庄神社宮司に任ず

糸崎八幡神社宮司 田辺祥宏

後月郡芳井町大字築瀬

兼て杵築神社宮司に任ず

茨八幡神社宮司 渡邊悟

井原市西江原町

兼て崇道神社宮司に任ず

茨八幡神社宮司 渡邊悟

井原市西江原町

兼て足次神社宮司に任ず

垂水神社禰宜 築澤澄

真庭郡落合町大字垂水

# 任免

自 平成 7 年 7 月 1 日  
至 平成 7 年 11 月 30 日

英田郡東栗倉村青野 兼て青野神社宮司に任ずる

九月二十一日

石井宏高

上房郡賀陽町大字上竹 八幡神社禰宜に任ずる

井上崇宏

倉敷市笹沖

足高神社禰宜に任ずる

九月三十日

井森神社宮司兼杵築神社宮司

三宅將

願ひに依り兼職を免する

十月二日

茨八幡神社宮司 渡邊悟

井原市西江原町

兼て菅原神社宮司に任ず

菅原神社宮司 志水義則

井原市菅野町

兼て菅原神社宮司に任ず

菅原神社宮司 志水義則

- 垂水神社欄宜 築澤澄  
真庭郡落合町大字垂水  
兼ねて落合町護國神社欄宜に任ずる
- 垂水神社欄宜 築澤澄  
真庭郡落合町大字下市瀬  
兼ねて三柱神社欄宜に任ずる
- 垂水神社欄宜 築澤澄  
真庭郡落合町大字高屋  
兼ねて天津神社欄宜に任ずる
- 十月十九日  
中山神社宮司兼軒戸神社宮司  
湯浅正敬  
願ひに依り兼職を免ずる
- 十月二十一日  
軒戸神社欄宜 湯浅敬弘  
苦田郡加茂町大字塔中  
軒戸神社宮司に任ずる
- 十一月九日  
八幡神社宮司 宗藤定  
久米郡中央町打穴里  
兼ねて興津神社宮司に任ずる
- 十一月十日  
龍之口八幡宮欄宜  
西山寿一  
願ひに依り本職を免ずる
- 龍之口八幡宮欄宜  
山崎武之  
願ひに依り本職を免ずる
- 十一月十三日  
中山神社宮司兼堀坂神社宮司  
湯浅正敬  
願ひに依り兼職を免ずる
- 湯浅正敬  
中山神社宮司兼荒神社宮司  
願ひに依り兼職を免ずる
- 湯浅正敬  
中山神社宮司兼三橋神社宮司  
願ひに依り兼職を免ずる
- 湯浅正敬  
中山神社宮司兼徳守神社宮司  
願ひに依り兼職を免ずる
- 湯浅正敬  
中山神社宮司兼八頭神社宮司  
願ひに依り兼職を免ずる
- 十一月十四日  
加茂神社宮司 松岡崇博  
津山市堀坂  
兼ねて堀坂神社宮司に任ずる
- 十一月十五日  
中山神社宮司兼布勢神社宮司  
湯浅正敬  
願ひに依り兼職を免ずる
- 湯浅正敬  
中山神社宮司兼神田神社宮司  
湯浅正敬  
願ひに依り兼職を免ずる
- 中山神社宮司 湯浅正敬  
岡山市奥市  
兼ねて岡山縣護國神社宮司に任ずる
- 十一月二十日  
作楽神社宮司 福田篤一  
津山市宮脇町  
徳守神社宮司に任ずる
- 福田篤一 津山市神戸  
兼ねて作楽神社宮司に任ずる
- 布勢神社欄宜 廣山英三  
苦田郡富村大字富西谷  
布勢神社宮司に任ずる
- 十一月二十一日  
布勢神社宮司 廣山英三  
苦田郡富村大字大  
兼ねて神田神社宮司に任ずる
- 徳守神社宮司 福田篤一  
津山市小田中新屋敷  
兼ねて荒神社宮司に任ずる
- 徳守神社宮司 福田篤一  
津山市桶屋町  
兼ねて八頭神社宮司に任ずる
- 徳守神社宮司 福田篤一  
津山市小姓町  
兼ねて三橋神社宮司に任ずる
- 十一月三十日  
貴布禰神社宮司兼少彦名神社宮司 為貞香苗  
願ひに依り兼職を免ずる
- 十二月一日  
明鏡神社欄宜 藤井順介  
井原市井原町  
兼ねて井森神社欄宜に任ずる
- 武宮神社欄宜 木山武彦  
笠岡市走出  
武宮神社宮司に任ずる
- 総社欄宜 菱川宏  
御津郡加茂川町加茂市場  
総社宮司に任ずる
- 瓜生神社宮司 横林武彦  
勝田郡勝北町山形  
兼ねて八幡神社宮司に任ずる
- 少彦名神社欄宜 村上正充  
久米郡久米町油木北  
少彦名神社宮司に任ずる
- 森野浩史  
高梁市津川町今津  
木野山神社欄宜に任ずる
- 江草正登  
川上郡備中町大字西油野  
八幡神社欄宜に任ずる

# 庁務日誌抄

自 平成七年七月一日  
至 平成七年十一月三十日

## 七月

- 一日 月次祭
- 三日 靖国神社団体参拝(第一班) 参事同行
- 五日 靖国神社団体参拝(第二班) 小山主事同行
- 十日 靖国神社団体参拝(第二班) 杉田録事同行
- 十一日 靖国神社団体参拝(第四班) 河田録事同行
- 二十日 祭式指導者養成研修会(神社本庁) 藤山助教参加
- 二十一日 教化委員会
- 二十五日 表彰・身分銓衡委員会、役員会
- 二十八日 祭祀祭礼総合調査委員会

## 八月

- 一日 月次祭、平和日本を守る岡山県民会議運営委員会(幸町会館) 参事出席
- 二日 総代会監査、広島県神社関係者大会(広島) 藤井副庁長出席
- 三日 雅楽指導者養成研修会(神社本庁) 山田講師参加
- 九日 庁長容体急変につき見舞

- (榊原病院) 参事、太田主事補出向、終戦五十年シンポジウム打合せ(友愛会) 参事出向
- 十三日 終戦五十年シンポジウム(岡山市民会館) 参事出演
- 二十一日 伊勢まいりと自然体験の旅(神宮) 四十五名参加
- 二十二日 世界連邦岡山県宗教委員会(岡山市民会館グリル) 参事出席
- 二十三日 祭祀舞指導者養成研修会(神社本庁) 浅原タツエ氏参加、班幣式、支部長会、特別委員会
- 三十日 総代会役員会・評議員会
- 三十一日 中国地区教化会議打合せ(徳守神社) 参事、太田主事補出向

## 九月

- 一日 月次祭、OA電源増設工事
- 二日 阿新支部神職総代研修会 参事講演、山口県神社関係者大会(山口) 湯浅副庁長出席
- 四日 世界連邦岡山県宗教者大会(金光教本部) 湯浅副庁長、沖田理事、参事出席
- 六日 鳥根県神社関係者大会(浜田) 藤井副庁長出席
- 十日 小笠原庁長死亡
- 十一日 故小笠原庁長葬儀委員会開催(岡山県いさお会館) 藤井、湯浅副庁長、参事、太田主事補出席

十二日 故小笠原庁長密葬(岡山県いさお会館)職員手伝い

十四日 特別委員会

十五日 平沼超夫大臣就任祝賀会(岡山国際ホテル)湯浅副庁

長、宮原総代会長出席

十七日 神宮大麻頒布始祭(神宮)

藤井副庁長、参事参列

十八日 神社庁長会(伊勢)藤井副庁長出席、故小笠原庁長葬儀委員会(護國神社)湯浅副庁

長、参事、太田主事補出席

二十日 祭式講師研究会(神社本庁)三原講師出席、教化委員会広報部会

二十一日 役員会

二十六日 神宮大麻頒布常任委員会

二十七日 神社振興対策指定神社宮司研究会(神社本庁)三上忠男氏出席

三十日 大浦神社宮司二級上昇進奉告祭(大浦神社)参事参列

故小笠原庁長葬儀委員会(岡山県いさお会館)藤井副庁長、参事、太田主事補出席

十月

二日 月次祭

十一日 故小笠原庁長合同葬(岡山縣護國神社境内)

十二日 合同葬儀受付簿整理(護國神社)参事、小山主事出席

十三日 教化委員会広報部会

十五日 船川八幡宮例祭(山室)

支部長献幣使参向

二十八日 全国総代会大会(京都)小山主事同行

三十日 神宮大麻頒布始祭(遺族福祉会館)

十一月

一日 月次祭、揚水ポンプ交換及び修理

三日 辰口八幡神社例祭(太田主事補献幣使参向)、渡邊幸彦氏葬儀(太田主事補参列)

四日 御津北支部神宮大麻頒布始祭(天計神社)河田録事参列

七日 教化委員会広報部会

八日 井原後月支部神宮大麻頒布始祭(花月別館)参事参列

十一日 久米支部神宮大麻頒布始祭(林業センター)湯浅副庁長参列

十三日 神宮団参打合せ会

十六日 平和日本を守る岡山県民会議運営委員会(幸町会館)参事出席

十八日 表彰委員会

二十七日 伊勢神宮新穀感謝祭団体参拝(参事、杉田録事同行)五四〇名参加

神職帰幽

自平成七年七月一日  
至平成七年十一月三十日

九月五日 等岡市走出 武宮神社宮司 木山 儔(三級)(九十一歳)

九月九日 岡山市東平島 北居都神社宮司 坪井 正(二級)(八十一歳)

九月十日 岡山市奥市 岡山縣護國神社宮司 小笠原 毅(一級)(七十二歳)

十月三十日 岡山市東平島 北居都神社禰宜 小竹 進(三級)(七十七歳)

十一月一日 新見市石蟹 大本八幡神社宮司 渡邊 幸彦(二級)(五十一歳)

十一月十一日 御津郡建部町紙工 宇甘神社宮司 菱川文輔(三級)(八十三歳)

十一月十二日 邑久郡邑久町大窪 八幡宮宮司 島津 正一(三級)(八十七歳)

十一月二十六日 津山市総社 総社責任役員 岡山市 神社総代会副会長 岡山県 神社庁理事 尾宮才助(六十八歳)

編集後記



○：今年には荒れるというが、平成七年は年明け早々からまさにその通りとなった。関西に大地震は起きないという神話はもろくも崩れ、一月十七日早朝、阪神淡路大震災が発生した。都市機能、住民のライフラインを一瞬のうちに打ちくだいた自然の猛威は、神戸を中心に壊滅的な大被害をもたらした。

この震災の記憶も生々しい内に、今度は三月、東京地下鉄サリン事件をはじめとする凶悪事件が続々と明るみに出てきた。カルト宗教教団オウム真理教が引き起こした身ぶるいするような残酷非道な数々の事件、逮捕された教祖以下教団幹部の裁判を通して全貌が徐々に明らかになりつつある。

○：日本中を震撼させたオウム真理教の宗教法人解散命令を機に、思わぬ火の粉が私た

ちの上に降りかかって来た。それは宗教法人法の改正という問題だ。賛否両論渦巻く中、国会に於いて成立した。社団法人にとっては最大の関心事だ。これからの法の運用に注目して行きたい。

○：年末の氏神様への初詣と神宮大麻頒布推進のテレビCMは、視聴効果も上がり好評だが、今回三年ぶりに内容を一新した新しいCMを、去る十二月二十六日から三十一日岡山放送テレビで放映した。視聴いただいたことと思う。荘重な雰囲気古社に木々の緑と太陽の光、清新な水を配した画面構成で新春の清々しさ、期待感もねらってみた。津山市中山神社で撮影させていただいた。ご協力に紙上を借りて改めて感謝申し上げます。視聴の感想を聞かせて欲しいものである。(小野)

神社庁閉庁のお知らせ  
12月28日(木)「御用納め」  
↓  
新年1月5日(金)「御用始め」